

学校教育目標	笑顔かがやく きれいな学校
目指す学校像	よく学び みんな仲良く よく遊び 認め、高め合う
重点目標	1 子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 2 子どもたちが安心して相談できる関係づくり 3 子どもたちの地域社会の一員としての自覚の育成 4 子どもたちの豊かな心を育む、潤いのある教育環境整備 5 教職員が「働きやすさ」と「働きがい」を感じられる職場環境整備

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和8年2月25日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○R6の6年生の全国学テにおいて、国語・算数は全国や市の平均より高く良好である。 ○市学調で、現4～6年は各教科ともに「授業が分かる」が市の平均と比べて良好である。 ○学校評価の児童の「深い学び」で肯定的な回答が87%である。 (課題) ○市学調では、現4～6年は各教科ともに市平均程度であり個人差がある。 ○学校評価の児童の「タブレット活用」の肯定的回答が89%で、一層のICT利活用の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ICT環境を最大限に活用した学びの充実 	1 5・6年生の教科担任制の実施 2 学習過程や学習ルール等を全学年で指導の統一 3 各種調査結果に基づく授業改善 4 朝学習で「PC」「対話」の導入 5 道徳・人権を核としたカリマネ実施	1 全国学テにおいて、国語、算数が、R6の市平均以上を維持できたか。 2 学校評価児童アンケート「新たな学び」で肯定的回答が前年(87%→90%)より向上。 3 市学調「問題解決学習」で肯定的回答が高学年市平均以上(R6:2/2学年)	1 6年は全国学テ・市学調で市平均以上を維持し、無回答率も低くなった。 2 肯定的回答が88.9%でほぼ目標値だった。 3 肯定的回答が、5・6年生ともに市平均以上で目標を達成した。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制を中学年でも実施する。 今年度作成した振り返りの視点や学習過程の板書カードを継続していく。 各種調査やアンケートに基づいて、個を生かすための授業改善を行う。 カリマネマップを常時活用する。 	○タブレット等で自分自身を振り返ることはよい。 ○タブレットだけでなく、デジタルとアナログの互いのよさを生かした教育活動を進めてほしい。 ○おはようメーターは毎日の子どもの様子が分かってよい。 ○子どもの多様性を考慮して、不登校の子どもが不利益にならないようにしてほしい。
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○いじめは組織で迅速に対応しているが、見守りを継続している事案もある。 ○長期欠席者が多く、関係機関と連携したり担任solaを一むで対応したりしている。 ○心と生活のアンケートやスクールダッシュボード等で、児童の悩みの把握に努めている。 ○学校評価の児童の肯定的回答が「教員の承認」86%「教員との相談」84%である。 ○児童・保護者等との積極的な教育相談の実施。 ○いじめ認知の積極的実施と早期対応。	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心できる快適な教育環境の整備 家庭や地域、関係機関と連携した組織的な対応 	1 交通事故防止のための安全教育と施設等の点検の充実 2 水の事故防止のための着衣泳の実施 3 配慮(熱中症やアレルギー事故等)を要する児童事故対応訓練の実施 4 おたがいさまの周知	1 学校評価教職員アンケート「施設設備」で肯定的回答が前年(100%)維持。 2 保護者地域と連携した通学路点検と整備要望書の提出 3 学校評価児童アンケート「楽しく登校」で肯定的回答が前年(84%→90%)より向上	1 毎月の点検と修繕をした。肯定的回答が97.8%でほぼ目標値だった。 2 7/7にはい坂の合同点検も実施し、関係機関が検討を進めてくれているが、その後も事故が2件発生した。 3 肯定的回答92.7%で目標達成した。	B	<ul style="list-style-type: none"> 事故の未然の事故防止や事故対応の研修を計画的及び随時実施する。 各主任や用務等と協力して、校地内、校舎内外の環境整備を進める。 いじめ問題再調査委員会の答申を踏まえ、いじめ事案に適切に対応する。 	○はい坂の安全について引き続き注意が必要である。市P協などとも連携していきたい。 ○地域では、はい坂周辺の安全な登下校ルートを模索している。はい坂利用数を減少させていくようにしていきたい。 ○solaを一むボランティアについて、保護者の中でも手伝いたい人がいるので周知するとよい。
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○小・中一体型の学校運営協議会が機能し、連携・協働の取組が実施できている。 ○組織の編成や開催日を調整し学校運営協議会とSSNとの連携を図った。 ○地域の方の来校意識のハードルが低くなった。 (課題) ○市学調「地域行事参加」の肯定的回答が学年によって市平均より低く、周知の徹底が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会とSSN等との連携・協働 地域や関係諸機関と連携した教育活動の実施 	1 学校運営協議会への児童の参加 2 学校・家庭・地域が連携した美化活動、挨拶運動の実施 3 PTA、地域行事の教職員への周知 4 全校児童対象童謡コンサートの実施	1 学校評価保護者アンケート「家庭・地域と連携」で肯定的回答が前年(94%→96%)より向上。 2 PTAや地域主催行事への児童や教職員の参加。	1 合同挨拶運動を実施したが肯定的回答が94.6%で目標に届かなかった。 2 6/1地域美化活動は150名程の参加だった。美園フェスに教職員が参加した。童謡コンサートは好評だった。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会に児童が参加する。 学校・家庭・地域が連携した美化活動、挨拶運動、運動会等を実施する 全校児童対象に平林氏によるコンサートを実施する。 	○佐々木成三氏の講演は良かった。今後も実施してほしい。 ○自転車の罰金制度も始まるなか、交通安全教育の充実を期待する。 ○居場所事業実施に伴い、施設開放事業との関係が不安である。 ○PTAや地域行事への教職員への周知をお願いしたい。
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○築13年の校舎に、用務員の業務努力により良好な教育環境を維持している。 ○学校教育目標「きれいな学校」の学校評価アンケートで児童・保護者・教職員の肯定的回答が95%以上である。 (課題) ○児童の個性を生かし、学習意欲を向上させる植栽や掲示物の一層の工夫。	<ul style="list-style-type: none"> 潤いのある落ち着いた教育環境の整備 学習意欲を高める教育環境の整備 	1 校地内の除草、及び校舎内の廊下のワックスやトイレの洗浄の実施 2 多目的室を教室転用するため準備 3 強風対策として、スプリンクラーの修繕や砂やダスト等の現物給与の依頼	1 学校評価保護者アンケート「施設整備安全」で肯定的回答が前年(96%→99%)より向上。 2 学校評価教職員アンケート「施設整備安全」で肯定的回答が前年(100%)を維持 3 ワックス整備の実施	1 97.7%で目標値に届かなかった 2 97.8%で目標値に届かなかった。 3 体育館トイレ、1階廊下、トイレ床、特別支援学級床のワックス塗装及び校地外の樹木の剪定を実施した。	B	<ul style="list-style-type: none"> formsを活用した学校評価アンケートの回答率が5P向上したが、更に向上させるために周知を工夫する。 R9からの放課後子ども居場所事業実施の準備を進める。 毎週始め校地外の観察・清掃をする。 教室のワックス及び業者による廊下等のワックスを行う。 花壇や学年園の活用を意図的・計画的に行う。 	○教員と地域との連携の意識を高めてほしい。 ○合同挨拶運動では、保護者がたくさん参加していた。 ○美園地区も今後子ども数が増える中、地域への愛着の意識をもたせてほしい。 ○回収率が低いのが気になるので、回答を促す周知をしてほしい。
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○研修奨励を、独自の振り返りシートや中間面談を生かして実施している。 ○R6の在校時間月平均45時間以上勤務をしている者は4・5月は4割程度いる。 (課題) ○教職員の同僚性や研修意識が高い。 ○初任者、臨任者等の経験が少ない教員の指導力の育成。 ○学校全体で業務改善や教育課程の工夫を推進。 ○保護者や地域への教職員の働き方改革の周知	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上 「やりがい」「働きがい」「働きやすさ」を高める働き方改革の推進 	1 メンター・メンティー制や指導者を招聘したコーチング理論の周知と実践 2 中間面談の実施と研修履歴表の作成、及びそれを活用した評価の実施 3 管理職による教室巡回とフィードバック、授業観察の実施	1 学校自己評価の教員の「授業改善」で、肯定的評価(100%)の維持。 2 管理職による毎日の教室巡回と、一人年1回以上の授業観察及びフィードバックの実施。 3 当初面談等で研修奨励の実施。	1 98%で目標値に届かなかった。 2 教室巡回で様々な問題を発見対応できた。また、ほとんどの教員の授業(2月段階で65%)を参観できた。 3 取組をまとめ、東京海上日動教育振興基金「教育研究助成」を受けた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年実施できなかったコーチング理論の周知と実践を講師を招いて行う。 中間面談の実施と研修履歴表の作成、及びそれを活用した評価を実施する。 管理職による教室巡回とフィードバック、年2回の授業観察を実施する。 	○学校は子どもの記憶に残るような教育活動を行っている。 ○iPadが変わることで、教員の力量が生じないように研修をしてほしい。 ○挨拶の励行など、教職員が児童のよいモデルを示してほしい。 ○若手教員が増えているので、社会人としての考え方やコミュニケーション力、クリティカルシンキングなどを身に付けてほしい。
			1 年間行事や日課表等を見直して、ゆとりある勤務体制を構築。 2 テレワーク(在宅勤務)の推奨 3 Teamsや校務支援システム、生成AI等を活用した業務の効率化の実施 4 「おかげさま」の周知	1 ストレスチェックの全国平均より上司・同僚の支援(R6男性10.4と10.5、女性9.0と9.4)が高位。 2 学年での取組を中心にし、満足度は肯定的回答100%で向上した。 3 4月・1学期在校時間(R64月平均41h、45h以上22人・41%、1学期平均35h)縮減	1 ストレスチェックは9.0、10.2、7.4と10.0で全国平均より高位だった。 2 学年での取組を中心にし、満足度は肯定的回答100%で向上した。 3 4月在校等時間の平均32h、45h以上12人で減少、1学期在校等時間等平均29hで減少した。	A	<ul style="list-style-type: none"> 日課表において短縮日課を週2日にすることで、下校時刻を早め指導力向上のための研修時間を増やす。 必要な行事や業務をさらに精選して、年間計画を整備する。 Teamsや校務支援システム、生成AI等を活用した業務の効率化を進める。 	

